

平成31年度 学校自己評価システムシート

(埼玉県立川口特別支援学校)

*学校関係者 評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえ評価を受けた日とする。

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の主體的な学びと人との関わりを大切にす学校 家庭や地域との連携を大切にす、一人一人の豊かな生活を支える学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 児童生徒一人一人のニーズに応じた授業づくりと、12年間を見通した教育課程づくり及び2年後の小中学部単独校を見据えた教育課程づくりを進める。 家庭・地域・専門家との連携を基に、一人一人に応じた校内・校外支援とキャリア教育・進路指導の充実を図る。 緊急時・災害時に備えるとともに、安心安全な学校づくりを進める。 「一人一人を大切にす学校づくり宣言」の具体化を図り、児童生徒一人一人の人権を尊重する教育活動を進める。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局 (教職員)	名

学校の自己評価

学校の自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価 (月 日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>発達と障害特性、生活年齢を踏まえ、12年間の成長と将来の地域社会での生活を見通し、一人一人のニーズに応じた授業づくりを進めている。太田ステージ評価法、旭出式社会適応スキル検査(高等部)を始めとしたアセスメントツールを活用しながら、日常的な教職員の話し合いと共通理解を大切にし、授業研究や事例研究を行っている。引き続き、日々の授業や指導・支援を充実させる。</p> <p>学部目標や「大切にすること」「時期の特徴」等についての見直しを行い、「教育課程ファイル」に反映させた。教育課程検討委員会を設置し、日課や行事について全校的な視点からの共通理解を図った。教育課程研修部が中心になり学部ブロックで「教育課程反省」を実施した。学部ブロック研修を充実させ、その内容を共有して系統性のある教育課程づくりを進める。新学習指導要領や2年後に小中学部単独校になることを踏まえた教育課程について必要な検討・見直しを始める。</p>	児童生徒の一人一人の実態や課題に応じた授業づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な教職員の話し合いと共通理解を大切にするとともに、年間を通して計画的に学部ブロック研修を実施する。授業研究、事例研究等を行う。 外部講師による研修を行う。太田ステージ評価法を始めとしたアセスメント法とその活用の仕方についての研修を行う。 外部講師と連携し、一人一人のニーズに応じた指導・支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な教職員の話し合い、学部ブロックを中心とした事例研究や授業研究等を行い、一人一人のニーズに応じた授業づくりと指導・支援の充実が図られたか。 アセスメントの方法とその活用についての理解を深め、一人一人のニーズに応じた授業づくりと指導・支援が進んだか。 			
2	<p>家庭と連携し、保護者と共通理解を図りながら、一人一人のニーズに応じた支援を進めている。また児童生徒の障害特性や行動の理解とその支援について、専門職による指導・助言を取り入れて日々の教育実践に活かしている。小・中・高等学校からの支援要請に応じるとともに、川口地区特別支援教育コーディネーター連絡協議会を実施している。引き続き、校内・校外の支援を充実させ、小・中・高等学校との連携体制を充実させる。</p> <p>高等部では、地域の関係諸機関と連携して、本人・保護者のニーズに応じた丁寧なキャリア教育・進路指導を行い、将来の社会生活を見据えた進路実現を進めている。小中学部は、上級学部見学やキャリア教育の視点から教育実践等を行っている。本校の教育課程を踏まえ、12年間の系統的な支援を想定した「キャリア発達段階表」を作成した。学部ブロックでのキャリア教育を充実させるとともに、2年後に小中学部単独校になることを踏まえた指導のあり方について検討を始める。</p>	校内・校外の支援の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との共通理解を進めながら、臨床心理士等の指導・助言を活かす。児童生徒理解を深め、指導に活かす。 諸機関と連携し、支援会議を行う。 諸機関との連携を深め、研修支援、教育相談とネットワークづくりを進める。川口地区特別支援教育コーディネーター連絡協議会を実施する。 「支援部報告」を実施し、全教職員で取り組みの共通理解を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との共通理解を深めることができたか。 アセスメントや指導助言を日々の授業や指導・支援に活かされたか。 外部の専門職及び地域ネットワークを活かし、それぞれのニーズに応じた校内・校外支援を進められたか。 連絡協議会を実施し、川口地区の小・中・高等学校での特別支援教育の連携体制が充実できたか。 			
3	<p>緊急時対応マニュアルを用いた研修を実施し、内容や対応について全教職員に周知した。児童生徒の「情報交換会」を2回行った。危険事例についての情報共有の仕組みが確立し、「ヒヤリハット」の意識が高まっている。大災害時対応の校内体制の確立や関係機関との連携を進めるとともに、実践的な引き取り訓練や児童生徒の実態に応じた防災学習等を行う。災害時の保護者の対応について具体化し、保護者に徹底する。</p>	安心安全な学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 危険事例の情報を全教職員で共有する。日常的に安心安全にむけた教育環境整備を行う。 避難訓練・引き取り訓練実施時に合わせ、定期的に災害対策委員会を行う。 保護者の意見を踏まえ、大規模災害等を想定した実践的な防災学習や避難訓練・引き取り訓練を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 危険事例を共有するとともに、日常的に安心安全のための教育環境の整備が行えたか。 災害対策委員会を定期的実施し、災害対策の充実を図ることができたか。実践的な防災学習が行えたか。 三者連絡会(わかゆり・サンテピア・本校)で課題を共有し、解決策を探れたか。 			
4	<p>合理的配慮について、個別の指導計画と教育活動に反映している。「一人一人を大切にす宣言」とチェックシートに基づく研修・話し合いを学部ブロックで実施するとともに外部講師による全校研修を行っている。合理的配慮と人権について全教職員の意識を高め、教職員の共通理解とチームワークを大切にし、日々の教育活動を進める。</p>	一人一人を大切にす学校づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> 障害者の人権や合理的配慮、障害特性に応じた指導・支援の研修を行う。 人権・体罰に関するアンケートを実施する。各学部で研修を行う。 日々の教育実践を振り返り、児童生徒や保護者との信頼関係を大切にしながら、適切な指導・支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修を通して、教職員一人一人が人権や合理的配慮、障害特性についての理解を深めることができたか。 日々の教育実践を振り返り、人権を大切にす意識づくりと適切な教育活動の具体化を図ることができたか。 			

学校関係者評価	
実施日	年月日
学校関係者からの意見・要望・評価等	

